

# オーシャンズ12(OCEAN'S TWELVE)

2005(平成17)年1月31日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



## 第2章

やっぱり楽しいのが一番！

監督=スティーブン・ソダーバーグ/出演=ジョージ・クルーニー/ブラッド・ピット/マ  
ット・デイモン/キャサリン・ゼタ=ジョーンズ/アンディ・ガルシア/ジュリア・ロバー  
ツ/ヴァンサン・カッセル (ワーナー・ブラザーズ映画配給/2004年アメリカ映画/125分)

……『オーシャンズ11』に続く『オーシャンズ12』は、オールスター映画。  
今回は美人女優のキャサリン・ゼタ=ジョーンズまで加わり、あの手この手  
の「騙し合い」が展開される。これほど華やか(?)でデカイ規模の詐欺・  
窃盗ともなれば単純に楽しめばいいのかもしれない(?)が、「オレオレ詐  
欺」はやりの昨今、教育上よろしくないのでは……? それはともかく、作  
品としても私の勝手な予想どおり、もうひとつ……?

## 🎬 今回の新人(?)は2人

今回の新人は2人。1人は『シカゴ』(02年)でアカデミー賞助演女優賞を受  
賞した美人女優のキャサリン・ゼタ=ジョーンズ。彼女はユーロポール(欧州警  
察機構)の凄腕女捜査官イザベルに扮して大活躍だが、それ以外にもさまざまな  
顔を見せている。

その第1はラスティ(ブラッド・ピット)との過去の恋……? 果たして再  
び出会った2人の恋の行方は……? 第2はイザベルの出生にまつわる秘密。そ  
れは映画の最後に明かされることに……。このように『オーシャンズ12』におい  
ては、新人(?)ながら、このキャサリン・ゼタ=ジョーンズは準主役級として  
の重要な役柄を演じている。

もう1人はフランス人俳優のヴァンサン・カッセル。彼はヨーロッパ最強の強  
盗団「ナイト・フォックス」ことフランソワ・トゥルアーとして、オーシャンズ  
の前に立ちふさがった。

白い高級スーツを粋に着こなしたカッコいいフランス人だが、オーシャンズ11に「世界一の泥棒」の座を挑むほどの人物だから、知恵もさることながら肉体的能力もすごい。レーザー光線が飛び交う中を、オリンピックの体操選手や中国の上海雑技団(?)よろしく、人間技とは思えないほど身体をクネクネ(?)させてこれをクリアする技術は超一流！ そのシーンはホントに見どころいっぱいだよ……！

## オーシャンズはなぜ再結集を？

3年ぶりにオーシャンズ11が顔を合わせるようになったのは、前向きの話のためではなく後ろ向きのお話し合いのため。

すなわちそれは、前回ままと1億6000万ドル(約165億円)を盗まれたラスベガスのカジノを牛耳る大ボスであるテリー・ベネディクト(アンディ・ガルシア)の執拗な追及によって、オーシャンズ11のメンバーたちが1人1人「戸別訪問」を受け、3年分の利子をつけた1億9000万ドルを2週間以内に返さなければ命はないと脅されたためだ。

## 12人目のメンバーは？

オーシャンズ11からオーシャンズ12に昇格(?)したのは、当然「盗っ人」のメンバーが1人増えたから。そしてこの12人目のメンバーはテスト・オーシャン(ジュリア・ロバーツ)。テストはオーシャンズ11のリーダーであるダニー・オーシャン(ジョージ・クルーニー)の妻。『オーシャンズ11』ではダニーの敵だったが、今回はその妻になるのだから、映画ってホントに便利な芸術……？ そのうえ、1本の映画の出演料が20億円というハリウッド女優最高のギャラを誇っている(?)ジュリア・ロバーツは、この映画の撮影開始の直前に、双子を妊娠していることが判明した身重の身。

そこで映画ではこれもうまく利用したうえ、ダニーの妻であるテストがハリウッドの大女優ジュリア・ロバーツに似ていることに目をつけて、ジュリア・ロバーツに扮して盗みの手助けをというちょっと面白い役柄を演じさせている。しかも

それを応援するのが本物のブルース・ウィリスときたから一層ワケがわからない……？ とは言っても、この部分だけはしっかりとその面白さがわかるから、いたるところで観客の笑いが……。

## ブラッド・ピットとマット・デイモン比較

『オーシャンズ12』の中で私がよくわかるスターは、ラスティーとライナス（マット・デイモン）の2人。

ラスティーはリーダー格のダニーとともにオーシャンズ12の中核メンバー（？）だが、ライナスはまだまだ若手で経験不足の未熟者。オーシャンズ12では、このライナスが重要な役割を希望したため、ダニーとラスティーはこれを認めたが、果たして実戦では……？ さらに中核メンバーが逮捕された後、ライナスはテスをジュリア・ロバーツに化けさせてコトを決行しようとしたが、残念ながらその結果は……？

## ジュリア・ロバーツとキャサリン・ゼタ＝ジョーンズ比較

ジュリア・ロバーツとキャサリン・ゼタ＝ジョーンズの出演料を比較すればそこには大きな開きがあるはず。しかし私に言わせれば、もともとジュリア・ロバーツはそれほど美人ではない！ ただ大きな口が印象に残るため、顔と名前が一致しやすいことと、あの『エリン・ブロボビッチ』（00年）での名演技が光っているだけ（？）の女優。

この『オーシャンズ12』でも、双子を妊娠しているジュリア・ロバーツに化けるといふ喜劇役者のような役割になっていることもあって、あまり魅力なし！ さらに今年齢も1967年生まれだから40歳近くになってきており、ポチポチ下り坂……？

それに比べれば、キャサリン・ゼタ＝ジョーンズは、この映画でもその登場シーンのほとんどをキリリとしたスーツ姿でキメているうえ、凄腕捜査官としての働きぶりは魅力たっぷり。

もっともこちらも1969年生まれだからジュリア・ロバーツより2歳若いだけだが、その美貌は健在！ パンフレットには、青山真治監督が「新たに登場するキ

ヤサリン・ゼタ＝ジョーンズがいいですね。きっと僕がファンなんでしょうね。ずっと彼女ばかり見ていましたからね（笑）」と語っているが、私にもこれが実によくわかる！

## ますますのオールスターでわけわからん！

『オーシャンズ11』（01年）の売り文句は、オールスターの結集と華やかな盗みの手口。それが『オーシャンズ12』ともなると、スターの数はさらに増大するし、手ごわい敵やライバルも、第1に金利を含めた被害額の回収を迫るテリー、第2に強盗として優秀さを競い合う「ナイト・フォックス」のフランソワ、そして第3にユーロポールと多種多様だから大変。

これらの敵やライバルに立ち向かっていき、結局最後には勝利を収めることに決まっているわけだが、そこに至るまでのストーリーを観客が理解するのも大変なワザ……？

## この映画の出来は？

『オーシャンズ11』を観た時は若いアベックが列をなしていたが、この『オーシャンズ12』は「シネコン」の中の2つの映画館で上映されているせいか観客は約半分の入り。1月末ともなるとアカデミー賞にノミネートされる作品や、男優賞、女優賞その他の賞へのノミネート者が注目されるが、当然のように（？）、これだけの大スターを結集しながらもこの『オーシャンズ12』はどこにもノミネートされていない。

それははっきり言えば、それほど魅力的な映画ではないということ。日本人にわかりにくいということは差し引くとしても、やっぱり企画自体から根本的に考え直した方がいいのでは……？

2005(平成17)年2月1日記